

日本発トスカーナ便り：年末年始の過ごししかた

これまた時間が少し遡りますが、2013年の大晦日と2014年の新年（要は年末年始）は初めてイタリア（トスカーナ）で過ごしました。

日本の伝統的な年末年始といえば、紅白歌合戦をみて、除夜の鐘聞きながら年越しそば食べて、初詣。といった、どちらかというと家族で、「静かに」お正月を迎える、という感じですね。あくまでも重要なのは「新年」で、大晦日は新年を迎えるための日、みたいな位置づけでしょうか。

初めてドイツで過ごした大晦日はかなり衝撃でした。

日本と正反対、というか、花火と爆竹のものすごい音！そしてパーティー。

賑やかに新年に滑り込み、夜中まで大騒ぎして、翌日（新年）はみんな二日酔いで静か。みたいな感じ。

地理的に近いので、イタリアもドイツと同じような感じか？と思いきや、やっぱり、「イタリア式」でした。花火に爆竹はドイツと同じ、またクリスマスは「家族と」大晦日は「友達や恋人と」過ごすのが一般的、というのもドイツと同じです。ちょっと興味深かったので、いくつか挙げてみたいと思います。

・大晦日の食べ物

大晦日のディナーは、肉、と決まっていますが、代表的なのは、Zampone（ザンポーネ）とか Cotechino（コテキーノ）という豚肉を使った料理（私は食べていないので分かりませんが、豚肉と香辛料だけで作る、フレッシュサラミのようなものようです。ザンポーネは腸詰で、コテキーノは豚足に詰めるのだそうです）に付け合せは柔らかく炊いた Lenticche（レンズ豆）。レンズ豆を大晦日に食べると、翌年の金運がアップするんだそうですよ。☺

・危険な大晦日

大晦日は危険がいっぱい。まず一番多いのが、違法に輸入された（EUの安全基準を満たさない）中国製などの花火や爆竹の暴発による怪我や火事。その次に南部（ナポリ周辺）では昔から年明けに古い（不要な）物を捨てる、という習慣があるそうで、窓から皿やら家具やら降ってくる…らしいです。さすがに近年これは禁止になったようで、以前のように死者がでたり、暴動に発展することは少ない、とのことですが、かなり驚きの習慣です。全体的に南部の方が激しいようで、12月に入ると路上での飲酒が禁止されるとのこと。北部に住む人たちは、新年開けて、年末年始に南部でどんな騒動があったのか？テレビのニュースを見るのを、ある意味楽しみにしているようです。2014年は、死者は1名のみ（南北の境界線、首都ローマで花火の暴発）と、例年になく静かな年明けになった模様です。



・川や海に飛び込む

←この写真を覚えている方もいらっしゃるかもしれません。

「新年と一緒に海に飛び込む人大募集」の看板です。一昨年この看板を見たときは「どのくらい集まるんだろう？」位に思っていたのですが、どうやら川や海に飛び込む、というのは、イタリアでは「新年の迎え方」の一つのようです。年明けのテレビでは、〇〇川に飛び込んだ人△△人、と各地からレポートされていました。しかも飛び込む人数は大きな街なら100人単位！ニュースやインタビューの詳細までは理解できませんでしたが、テレビを見る限り、参加している皆さんは「これをやらないと年が越せない」みtainな感じで、楽しそうでした。結構寒かったのに…。

・赤い下着

そしてもう一つ。大晦日は老若男女、みんな「赤い下着」を着て、新年を迎えるんです。でも日本の「バレンタインの日」みたいに下着屋の陰謀、というわけではなく、由来は、なんと「ローマ帝国」まで遡ります。なんでも初代皇帝のアウグストゥスの時代から、「赤」色は力、精神、健康、豊かさの象徴とされていて、新年に赤いものを身にまとう習慣があったのだそうです。由緒溢れる伝統ですね。といっても昔は「赤」であれば何を身に着けても良かったらしいのですが、30年前あたりを境に「下着」が定番になったようです（ここは下着屋のマーケティングの成功事例でしょうね。）。

赤い下着は家族や友達、恋人同士でプレゼントするらしく、12月に入ると、下着屋さんのショーウィンドウは赤一色になります。（最初はクリスマスだから「赤」なんだと思っていましたが、年末年始用だったんですね。）



まだまだ他にも「イタリア式」年末年始の過ごし方、ありそうですね。

文化や習慣の違いって、面白いけど、体験してみないと分からないですね。

それにしても「赤い下着」にしても「レンズ豆」にしても…。イタリア人って意外に日本で言う所の「験を担ぐ」んだな、と。これまた驚きの「年末年始の過ごし方体験」の後に思った私でした。☺